

令和7年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価		
作成日		令和8年3月15日
法人名		園名
裕榮福祉会		玉櫛たちばなこども園
まとめ		全体平均 4.08
第2章第2節 乳児期の園児の保育	クラス編成や担任構成が例年と違い難しい部分もあったが、日課に慣れてからは落ち着いて過ごせていた。それぞれの児の特性を把握しながら関わり方を考え、保護者とも共有することで児の不安に繋がらないようにした。 児の生活力を高めることを土台とし、様々な経験ができるよう一緒に楽しむことを心掛けた。	
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	子どもが安心して生活ができるように丁寧な関わりをしながら保育を進めていった。子どもの身体づくりの為に、戸外で遊ぶ時間を確保し、探索時間も多く持てた。個々に応じて日課を決める際に、職員間で意見を出し合いながら進めていくようにした。オムツのサブスクを取り入れた事で保育教諭の業務がスムーズになり子どもと向き合う時間が増えた。	
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	子どもの安心を基盤に考え、様々な取り組みの中で五領域の育ちを意識した関りを日々積み重ねている。昔遊びや、発表会等、子どもの興味・関心のあることを取り入れ、今までとは少し違った新しい形で行った。その中で、課題は出てきたが、今後も子どもも大人も負担の無い楽しい行事のあり方を考えていきたい。また、些細な気づきや発見等、子どものエピソードを職員全体で共有する時間を今後も大切にしていきたい。	
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	一人一人の想いに気付きながら、子どもの発達に応じて丁寧な関わりができていた。3歳児未満は「安心・安全」を心掛けながら保育を進めるようにした。保護者対応は年々課題が残る相談内容が多くあり、対応に時間も要する。早期対応ができるように保護者対応スキルが必要である。	
第3章 健康及び安全	安全においては、防災委員、リスク委員を中心に対策を行っている。避難訓練や備蓄の備え等も、防災委員が定期的に確認をおこなっている。感染対策においては、園医や市への報告もおこない、同時に保護者とも情報共有することを心がけている。重大事故回避のため、ひやりはっと報告をし、リスク委員がまとめている。	
第4章 子育ての支援	子育ての支援において可能な限りの提供に努めることができている。今後は専門的なアドバイスやサポートの提供だけでなく、保護者向けに子育てに関する情報提供や相談支援の在り方等を強化する必要があると感じる。又、園の取り組みについて多くの方に知って頂ける枠組みも考えていきたい。	
第5章 職員の資質向上	園全体の教育・保育の質を上げていくため、この自己評価を次回はもっとうまく活用していきたい。個別に考えて評価するのではなく、数名で話しながら評価していくことで、見方の偏りも軽減され、振り返りの内容ももっと充実したものになるだろう。そのためには時間と人手が必要となるが、計画的に進め、時間の使い方も向上させていきたい。	
総合	総合的に見て、領域毎の数値にばらつきがある。以前は複数名で評価していたが、人手に余裕がなくなり各領域を個人で評価することにした結果、人によって厳しかったり甘かったり、差が出てきてしまっている様に思う。振り返りの充実が、保育教育の質改善に繋がると思うので、人手不足が解消されつつある来年度は、複数名で評価することにする。 全体的にこの一年間は募集活動に明け暮れたという印象だが、保育教諭の心のゆとりが、子どもの教育・保育の質向上にも繋がるので、引き続き人材確保に力を注ぎつつ、職員同士が職場内で主体的に学び合う姿勢をもてるよう、試行錯誤していきたい。	
データ表		
内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.47
「3歳未満児保育」	32	4.44
「3歳以上児保育」	53	3.42
「教育保育の配慮事項」	16	4.31
「健康・安全」	29	4.62
「子育ての支援」	16	4.31
「職員の資質向上」	9	3.44
計	170	4.08
データグラフ		